

<h1>指導資料</h1> <p>鹿児島県総合教育センター 平成30年10月発行</p>	<h1>社会 第131号</h1>	
	対象 校種	中学校 義務教育学校 特別支援学校

鹿児島学習定着度調査を生かした 中学校社会科の授業づくり

鹿児島学習定着度調査については、自校生徒の学力や学習状況の把握にとどまり、学力向上を図る手段としてのみ捉えることが多かったが、本来は教員の指導法改善も目的の一つである。そこで、本稿では、調査問題の分析及びそれを生かした授業づくりの具体について提案する。

1 鹿児島学習定着度調査の出題意図について

鹿児島学習定着度調査（以下、本稿では本調査と記載）の趣旨・目的は以下のとおりである。

I 調査の概要

1 趣旨・目的

学習指導要領において身に付けることが求められている①基礎的・基本的な知識・技能や思考力・判断力・表現力等に関する学力状況を把握するとともに、児童生徒の学習に関する意識や学び方などの学習状況を把握する。

また、各学校に全県的な傾向との比較・分析などを通じて、②自校の課題を明確にさせ、③問題解決的な学習活動を取り入れるなど教員の指導法改善を図るとともに、児童生徒の学力向上を図る。

（「平成29年度鹿児島学習定着度調査結果報告書（平成30年1月調査）」より抜粋、丸数字及び下線は筆者加筆）

教員は、①の基礎的・基本的な知識・技能や思考力・判断力・表現力等に関する学力状況を把握し、②の自校の課題を明確にするという趣旨・目的の一面にばかり意識が働いてしまう。しかし、結果や分析を自分の授業改善にどのように生かせばよいかと悩んでいる教員も少なくない現状を鑑みると、③で示されている問題解決的な学習活動を取り入れるなど教員の指導法改善を図るという

趣旨・目的をより意識することが大切ではないか。そこで本稿では、本調査の分析について述べるとともに、その中でも特に課題のある調査問題から、授業をつくるということを試みたい。

2 鹿児島学習定着度調査問題の分析

(1) 学年別の通過率

資料1は、本調査の県の学年別の通過率である。平成29年度は中1の通過率が低いが、平成28年度は中2の通過率が低かった。また、県教育委員会は通過率の目標を基礎・基本が概ね8割、思考・表現が概ね5割と設定しているが、両学年とも届いていない。本稿では、平成29年度の通過率が低い中1の本調査の分析について述べていきたい。

資料1 平成29年度鹿児島学習定着度調査

学年別通過率【社会】（数字は%）

	小5	中1	中2
基礎・基本	69.4	59.2	61.4
思考・表現	57.0	39.3	46.9
全体	65.6	53.3	57.1

(2) 評価問題の出題形式

社会科の評価問題は、資料2に示すような出題形式に分類できる。問題の分析に当たっては、まず、どのような形式で出題されているかを把握す

ることが必要である。本調査が、どのような形式で出題されているかを一部紹介する。

資料2 評価問題の出題形式

出題形式	特徴
語句補充	設問中の () に語句を補充
語句解答	設問に直接解答
記号選択	最適な解答を単語から選択
短文選択	最適な解答を短文から選択
地図選択	地図上の位置を示す記号を選択
資料選択	設問の趣旨に沿う資料を選択
記述	設問に短文で解答
作業	白地図上の場所への塗りつぶしなど
その他	年代の並べ替えなど

語句（語句補充、語句解答）の出題形式の中から語句補充を資料3に示す。語句補充（語句解答も同様）は社会的事象に関する名称や用語等を語句で解答するものである。そのため、基礎的・基本的内容を問うのに適している。生徒は設問を読み、これまでに習得した知識を思い出して解答するため、この形式では一般的に社会的事象についての知識・理解を問うことが多い。

資料3 語句補充の出題例

獲 加 多 支 函 ()	次の説明文と左の資料の () に共通してあてはまる語句を答えよ。 (説明文) 一部省略 大和政権は、5世紀には巨大勢力となり、その支配者は () と呼ばれるようになった。
------------------------------	---

選択（記号選択、短文選択、地図選択、資料選択）の出題形式からは資料選択の例を資料4に示す。資料選択は基礎的・基本的内容を問う設問と思考・判断・表現の力を問う設問が考えられる。資料4の出題の場合、前半で選択した根拠として地図の特色を理解しているかが問われている。一般的には、選択の出題形式は、正答の可否がはっきりしていて、基礎的・基本的内容を問う設問と捉えることが妥当である。資料4の後半では、記述式の出題になっており、思考・判断・表現の力を問うている。一般的に記述式は思考・判断・表現の力を問う設問である。平成29年度の調査では、

6問という多くの出題があり、通過率も低い設問が多かった。

資料4 資料選択の出題例

東京からカイロまでの距離を測るために最も適切な地図は、次の地図A～Cのどれか記号で答えよ。また、その地図を選んだ理由を、地図の特色を踏まえて説明せよ。

資料5の出題は、地図や気候名から雨温図を選び、それらを基に気候の特色を説明する設問である。

資料5 記述式の出題例

ア～エは、地図中の温暖(温帯)湿潤気候である東京とブエノスアイレス、西岸海洋性気候のパリ、地中海性気候のパースのいずれかの都市の気温と降水量を示したグラフである。地中海性気候であるパースのグラフを選び、地中海性気候の特色を他のグラフと比べて説明せよ。

この雨温図に関する出題は、通過率がいつも低いいため、例年気候を替えたり、出題形式を工夫したりして出題している。通過率が低だけでなく、

無解答率も高く、課題の残る設問であった。

(3) 評価問題の分析

資料2の出題形式と評価の観点別(思考・判断・表現, 資料活用の技能, 知識・理解)等による分類を一覧にした例(一部)が資料6である。一覧にすることで、傾向が把握できる。

資料6 鹿児島学習定着度調査の分析

平成29年度鹿児島学習定着度調査【社会(中学校第1学年)】の分析(一部)

【分析の手順】
 ① 大問, 中問, 小問数に合わせて, 分析表の枠組みを作成する。
 ② 小問ごとに問題内容を簡潔に書き出す。
 ③ 「出題形式」「評価の観点」について, 該当する欄に○印を付け, 集計する。
 ④ 鹿児島学習定着度調査結果報告書が発表されたら, 小問ごとに県正答率を確認し, 自校の正答率と比較する。
 ※ 特に「思考・判断・表現」の力を見る設問に注目し, これを基に授業改善を図る。

大問	中問	小問	出題内容 (解答例)	出題形式							評価の観点			通過率%			
				語句補充	語句解答	記号選択	短文選択	地図選択	資料選択	記述	その他	関心・理解	思考・判断		知識・理解		
1	地理	1	地図上の赤道の位置					○								69.6	
		2	地図上の緯度の位置											○		53.1	
		3	地図上の大陸の位置					○									46.0
		4	オーストラリア大陸の名称													○	
			正方位図法													42.3	
			地図の特色												○		
			合計														

3 調査問題を基にした授業づくり

(1) 授業づくりのポイント

まず、どの調査問題から授業をつくるのかについてであるが、以下のように考えた。

- 1 対象学年は、調査問題の通過率が低い学年とする。
- 2 対象問題は、出題形式により通過率に大きな違いがあることを踏まえ、生徒が苦手とする出題形式を洗い出す。

今回の授業づくりについては、調査問題の通過率が低い中1を対象学年とした。出題形式については、調査問題結果を分析し、特に資料選択や記述式に課題があることが分かった。上記2点から中1の資料選択及び記述式の設問を取り上げることにした。具体的な調査問題の選択では、雨温図の読み取りに関する設問であるが、詳細は後程述べる。また、調査問題を基にした授業づくりの例について、資料7に示す。

資料7 調査問題を基にした授業づくりの例

- A 定着に課題の残る設問を分析する。
- I Aで分析した設問について、社会的事象や資質・能力を明確にする。

- ウ イの事象や資質・能力を捉えた上で、学習課題とそのまとめを想定する。
- E ウの学習課題解決のための学習活動を考える。
- オ Eの学習活動で得た内容から生徒が想定するまとめまでの授業の流れを確認する。

(2) 授業づくりの実際

ア 設問の分析

先述の資料5の設問は、南半球にあるオーストラリアのパースの雨温図を選び、地中海性気候の特色を他の雨温図と比較する設問である。出題形式は資料選択と記述式の設問である。

イ 求められる資質・能力

この設問を解く際に求められる資質・能力は、地中海性気候が夏季に乾燥することと、パースは南半球にあるため、12月から2月が夏になるという地理的事象を理解した上で雨温図を読み取り、他の雨温図と比較して説明する力である。

ウ 学習課題の設定

複数の社会的事象を比較することは社会的な見方・考え方を働かせることにつながる。例えば、パースと同じ温帯である日本の気候と比較するならば、「パースと鹿児島の気候にはどのような違いがあるか」という学習課題も考えられる。

E 課題解決のための学習活動の設定

この授業では、地中海性気候の特色を理解させたいので、例えば、まとめを「鹿児島は夏の降水量が多いが、パースでは夏に乾燥する」とする。そのまとめにつながる活動として、月別の気温や降水量の表を雨温図に表す調べ活動や気付いたことを話し合う活動を設定できる。夏に乾燥する気候の特色を理解させる上で、ぶどうやオリーブ、トマトの栽培などが夏に乾燥する地域には適しているということは、同じ地中海性気候のヨーロッパを取り上げても構わない。また、観光地として人気のあるパースの旅行雑誌の服装の情報から気候について調べさせ、例えば、北半球の鹿児島と季節が逆になっていることを理解させることも考えられる。

オ 授業の流れの確認と展開例

最後に授業の流れを確認する。展開の中で地図

を十分活用し，社会的事象を地理的に把握させ，調べたことを説明したり発表したりする活動も取り入れたい。以下は今回の展開例である。

学習活動例	
課題設定	1 学習課題を設定する。 パースと鹿児島県の気候にはどのような特色があるか。(両者の違いを比較させることで気候の特色をより認識させる。)
課題追究	2 鹿児島県の月別気温と降水量を基に雨温図を作成する。(温帯湿潤気候の特色をつかませる。) 3 パースの気候を予想し，同じく雨温図を作成する。(地中海性気候の特色をつかませる。) 4 地中海性気候が栽培に適している農産物について地図帳を用いて調べる。 5 パースの旅行雑誌から服装について調べる。 6 鹿児島とパースの気候の違いについて話し合う。(特に降水量の違いについて説明させる。)
課題解決	7 まとめを発表する。 鹿児島は夏に降水量が多い。一方，パースは12～1月の夏に乾燥し，冬に雨が降る地中海性気候である。

(3) 定着を図るための繰り返しの実践

本調査における低い通過率からも分かるとおり，雨温図の読み取りについては，理解の定着が難しい。そのため，他の気候帯の学習だけでなく，気候帯以外の学習でも**関連のある内容であれば何度も復習し定着を図る**必要がある。以下は，常夏の島で暮らす人々という題材で授業を組み立てた授業実践であり，展開の中でフィジーと東京の雨温図の比較を取り扱った例である。

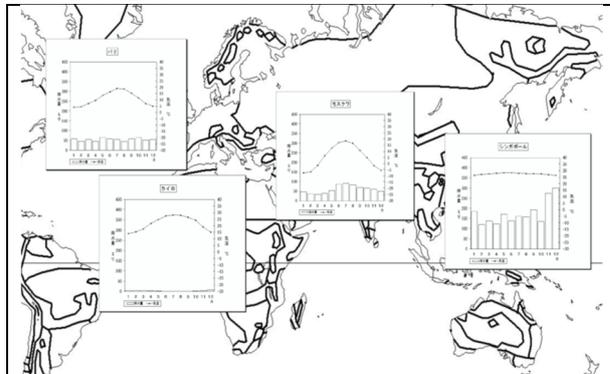
学習活動例	
課題設定	1 学習課題を設定する。 一年中暑い地域で，人々はどのように暮らしているか。
課題	2 フィジーの人々の生活の変化について調べ，熱帯の特色について知る。

追究	(フィジーと東京の雨温図の違いを読み取る。)
	3 人々の生活の変化について考える。
課題解決	4 まとめをする。 自給自足に近い生活を送っていたが，近年は観光業が発達してきている。

(鹿児島県市立吉田南中学校阪本教諭の実践を基に作成)

また，気候帯の学習ごとに雨温図を作成させると，単元終了時には，資料8のような世界地図上に雨温図をまとめたワークシートが完成し，それぞれの雨温図の特色を復習したり比較したりすることで定着が図られる。

資料8 雨温図のワークシートの例



4 終わりに

本調査のように多くの時間と検討を重ねて作られた良問には学ぶ点が多くある。特に**定着が不十分な単元や社会的事象に焦点を当て，学校の実態に応じた授業を新たにつくっていく取組を進めてほしい**。また，本調査問題を解くには，社会的な見方・考え方を働かせながら深く理解したり，考えを形成したりするなどの資質・能力が求められる。本調査問題を生かした授業により，このような資質・能力が育成されることになれば，まさにそれは主体的・対話的で深い学びが実現した授業ではないだろうか。

—引用・参考文献—

- 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編』平成29年，東洋館出版社
- 鹿児島県教育委員会『平成29年度鹿児島学習定着度調査結果報告書』平成30年
- 澤井陽介著『授業の見方[主体的・対話的で深い学びの授業改善]』平成29年，東洋館出版社
(教科教育研修課 尻無濱 正和)